

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月21日

【評価実施概要】

事業所番号	270101140		
法人名	社会福祉法人桐紫苑		
事業所名	グループホームこうばた		
所在地 (電話番号)	〒030-0943 青森県青森市幸畑字谷脇214-1 (電話) 017-738-8080		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 2月 29日	評価確定日	平成 20年 5月 21日

【情報提供票より】(平成 19年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 1月 10日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	16 人	常勤 13人, 非常勤 3人, 常勤換算	13人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 ~ 30,000 円	その他の経費(月額)	冬期 6,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性 8 名	女性 19 名
要介護1	2 名	要介護2	8 名
要介護3	12 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢 平均	81 歳	最低	63 歳
		最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山谷医院、ミナトヤ歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「家庭的でやさしく～尊厳をもって～」というホームの理念があり、職員にはその理念がよく浸透している。入居者へは言葉がけなど丁寧な対応をしており、それでいてかしまらずに家庭的な雰囲気が保たれている。老人保健施設が併設しており、そちらのデイケアの天然温泉も利用できるのも、希望者は足を運んで入浴を楽しんでいる。パンやヤクルトの移動販売があり、入居者は買い物を楽しめる。小さな畑をつくり、野菜づくりなど入居者に教えてもらいながら行っている。誕生月に誕生会を開く他、併設施設で開催している行事へも参加して楽しんでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>個室の環境づくりでは、使い慣れたものを持ってきていただけるよう本人や家族へ声をかけている。所持品が少ない方へも、その人らしい居室となるよう好みに配慮した居室作りをしている。入浴支援について、回数・時間帯が限定されているという改善点に対しては、現在の職員の体制ではいつでも対応するのは難しいので、希望を聞いて午前・午後へ分けたり、入浴順を変える等して対応している。また、事故報告記録が取られていなかったため記録様式を用意した。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員が一人ひとり行い、意見を出し合って自己評価票へまとめている。改善点についても全員で話し合っている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は平成19年11月に一回行っただけで、その時は挨拶やホームの概要説明で、まだ具体的な討議には至っていない。近いうちに第2回の開催を予定している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>入居時に意見や苦情の窓口を説明している。意見・苦情があった場合は管理者と担当者として話し合い、職員へ伝えるようにしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所の婦人会に草取りに来てもらったり、踊りを披露してもらったりしている。近所を散歩する時には、隣近所の人と挨拶をして声をかけあっている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念はあるが、地域密着型を目指すものとなっていない。		理念を地域密着型サービスの役割を取り入れた内容となるように検討され、地域生活に根ざした暮らしを支えるよう期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングルームにさりげなく掲げている他、毎週末の職員会議等で管理者から職員へ理念を伝えており浸透している。介護方法で何か問題があった場合は理念に立ち戻って考えるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近所の婦人会に草取りに来てもらったり、踊りを披露してもらったりしている。近所を散歩する時には、隣近所の人と挨拶をして声をかけあっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は全職員で行うようにしている。外部評価報告についても会議で取りあげ、みんなで改善点について話し合い取り組んでいる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は過去1回(平成19年11月)しか開催できていない。家族代表、入居者本人、民生委員、老人クラブ、婦人会の代表に出席してもらい、出席者挨拶、ホームの概要説明等行っている。</p>		<p>2ヶ月に1回の開催が求められますが、近いうちに市担当職員にも出席してもらっての2回目の開催を予定しているようなので、予定通り開催し施設の運営に生かされる様期待します。</p>
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当課へ毎月の空床状況を報告している他、運営の実情を報告相談している。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度について現在必要性のある入居者はいない。職員は制度について学ぶ機会がない。</p>		<p>制度の対象者となる入居者がいなくても、今後研修会などに積極的に参加し職員の資質向上、いつでも入居者や家族へ情報提供できる体制作りが望まれます。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止マニュアルを作成し、職員は虐待が発生しないよう、また見過ごさないように意識を持ち、取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時・退居時など説明には十分時間をとり、重度化した場合の対応や、入居料金の算定方法を丁寧に説明している。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>独自のホーム便りを作成しており、普段の暮らしぶりや職員の異動状況などを載せて毎月請求時に家族へ送っている。預かっているお金は出納帳をつけており、支払いや面会の際に写しを渡して確認していただいている。面会時に声をかけ様子を伝える他、なかなか来られない家族へも電話で報告するようにしている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見や苦情があった場合は管理者と担当者で話し合い、職員へ伝えるようにしている。入居時に苦情の窓口について説明しているが、意見を吸い上げるための継続した取り組みがない。</p>		<p>長く入居していると家族からはなかなか意見を言いにくい状況があらわれてきます。意見や苦情の受付は入居時の説明だけで終わらず、継続して施設から積極的に家族等へ説明することを望みます。</p>
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ホーム内の異動はできるだけ行わないように努めている。併設の老健から異動してくる職員には、早く利用者に馴染めるように職員がついて教えている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修の機会が少ない。外部研修への参加は併設の老健で決定しており、また人員的にも研修時間を作り出せる余裕がない。老健と合同での内部研修会を企画したことがあったが実現できずにいる。		サービスの質は個々の職員の質によって成り立っています。そのためにも職員が段階的に力を付けていけるような研修機会の確保を期待します。限られた人数の中で実務に影響の無いように研修の機会を確保するためにも、法人の人材育成に対する姿勢も求められます。
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のグループホームへは見学へ行ったりしているが、他グループホームと交流する取り組みがない。		以前は他グループホームへの見学を行っていたようなので、今後も継続してみたいかがでしょうか。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に家族に来てもらい、その後本人に見学に来てもらったりこちらから伺ったりして徐々に馴染んでもらうようにしている。入居後なかなか馴染めない方には、言葉がけをしたり、散歩に行くなどして気分転換してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑づくりや洋裁を教えてもらうなど、入居者の経験を活かして職員が教えてもらう場面作りをするようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族から伺った話や、本人の普段の話の中から思いや希望をセンター方式で記入して把握するようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員会議時・カンファレンス・モニタリングを全職員で行い、各棟の計画作成担当者が介護計画をまとめるようにしている。本人・家族の意見も聞くようにしているが、介護計画は転倒防止や清潔保持等の介護の為だけの計画になっており、本人・家族の生活への希望を反映したものになっていない。</p>		<p>介護計画は介助項目を並べるだけでなく、利用者の視点に立ち、その人らしい暮らしをしてもらうための支援を盛り込んだ計画が求められます。本人や家族の意見や要望を聞きだす工夫をして、普段の気づきやアイデアを反映させた計画作りが望まれます。</p>
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>モニタリングを3ヶ月に一回行うようにし、少なくとも6ヶ月に一回計画を見直すようにしている。また状態に変化があるときはその都度計画を見直すようにしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>病院受診は家族の付き添いとしているが、遠方の家族の場合は職員が付き添うようにしている。入居者の友達の家へ遊びに行ったりしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する医療機関を入居時に聞いている。無ければ協力医療機関の山谷医院で診てもらっている。2週間に1回往診があり、状態変化時は気軽に相談できる。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居説明時や身体状態の変化時、普段の話し合いの中で本人や家族と重度化した場合の事を話し合うようにしている。医療行為が必要になった場合は、併設の老健等へ入所し介護支援を提供される様援助されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室には暖簾をかけて直接室内が見えないよう配慮している。入居者への声がけも丁寧でいてよそよそしくない言葉でされていた。外来者の前では入居者のプライバシーに関する事は話さないように気をつけている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の予定はあるが、レクリエーションへの参加など過ごし方は本人の希望に任せている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状態に合わせ、きざみ食やおかゆ等用意している。メニューは併設の老健に準じているが好みに合わせ代替のおかずを提供しており、希望があれば漬物もつけている。野菜の皮むき等の下処理を入居者の方にしてもらうようにしている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回行っており、希望により足浴やシャワー浴も行っている。併設デイケアの天然温泉を希望により利用できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付けや洗濯、カレンダーをめくる、ボタンの縫いつけなど出来るだけ役割を見出してやってもらうよう支援している。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見や近くの公園へのドライブなど季節を楽しめるような外出をしているが、日常的な外出の機会は少ない。		外出は入居者のこれまでの地域との繋がりを保つためにも重要です。また、入居者・職員共に屋内だけで過ごすのはストレスが溜まりやすい傾向があります。入居者の馴染みの外出場所を探ってみる他、短時間でも外出する機会を確保する工夫を期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないことを職員はよく理解している。弄便行為のある利用者へは巡回をまめに行うようにして対応した。やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備えた記録用紙の整備も行っている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は18時から朝9時まで施錠している。玄関にセンサーと鈴をつけて、さりげなく外出がわかるようにしている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定しての避難訓練を年2回消防署に来てもらい実施しているが、近隣の住民への協力呼びかけは行っていない。非常食は併設施設で備えている。		職員だけの避難誘導には限界があるので、近隣の住民とも連携を図り、一緒に避難訓練を実施する等して協力体制を築いていくことが望まれます。また地震を想定しての訓練も行ってはどうでしょうか。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは併設の老健のメニューに準じている。入居者の状態に応じておかゆやきざみ食を用意し、好みに応じて代替も準備するようにしている。水分量、食事量も記録して注意している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ノロウイルス感染対策を各棟に掲示して注意喚起している。感染症マニュアルを作成しているが、知識の共有ができていない。インフルエンザ予防接種の希望を取って入居者全員行っている。手洗いうがいを励行し、手拭タオルを一人ひとり分けて手洗い場の側に掲げている。		ノロウイルスだけでなく、他の感染症に関する予防法や早期対応策の勉強会を定期的開催することを望みます。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各棟ともテレビの前にソファを置いたり、小上がりを設けるなど好きな場所で過ごせるような空間作りをしている。気になる音や光、におい等は感じられず、職員も声の大きさには気をつけている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人や家族へ使い慣れたものを持ってきてもらえるよう声をかけている。本人の所持品が少ない方へもその人らしく居心地よく過ごせるように、好みに配慮した居室づくりを支援している。</p>		

 は、重点項目。